

## ⑫ 実用新案公報(Y2)

平2-4233

⑤ Int. Cl.<sup>5</sup>

E 06 B 9/02

識別記号

B

庁内整理番号

8006-2E

②④ 公告 平成2年(1990)1月31日

(全4頁)

④ 考案の名称 ロツカー、キャビネット等の収納庫

②① 実 願 昭59-142803

⑤ 公 開 昭61-56492

②② 出 願 昭59(1984)9月19日

④③ 昭61(1986)4月16日

⑦ 考 案 者 森 田 豊 二 郎 奈良県生駒市辻町879番地の63

⑦ 出 願 人 ダイワ株式会社 大阪府大阪市平野区長吉出戸7丁目11番19号

⑦ 代 理 人 弁理士 半井 政夫

審 査 官 木 村 史 郎

## 1

## ⑦ 実用新案登録請求の範囲

1 開口部2の両側にガイドレール3を設けた本体1と、本体1の各隅角部に軸線を左右方向に配して設けたブーリー5と、上下部の前後のブーリー5に架け渡されたエンドレスベルト等の無端体4と、ガイドレール3に摺動自在に嵌合され、下端に基体8を設け、他端を上方の無端体4に連結した上部シャッター6と、ガイドレール3に摺動自在に嵌合され、上端に基体11を設け、他端を下方の無端体4に連結した下部シャッター9と、本体1の上下部に設けたシーブローラー13に架け渡され、双方の基体8、11を連繋し、上下シャッター6、9に相反する方向へ摺動せしめるワイヤーロープ12とから成るロツカー、キャビネット等の収納庫。

2 上部シャッター6が下部シャッター9より重量が大である実用新案登録請求の範囲第1項記載のロツカー、キャビネット等の収納庫。

## 考案の詳細な説明

## 産業上の利用分野

本考案は更衣用のロツカー或いは書類保管用のキャビネット等の収納庫に関する。

## 従来の技術

一般に、ロツカーやキャビネット等においては扉体を開閉自在に取り付けているのが通常である。

## 考案が解決しようとする問題点

従来の扉体の場合には、扉体を開閉するための

## 2

空間部を必要とし、また開放された扉体は隣接するロツカー等の使用の障害となるものであつた。

そこで、開閉に際しての空間を不要とし、且つ隣接する収納庫の使用も支障なく行えるようにしようとするものである。

## 問題点を解決するための手段

以下図面について本考案の一実施例を説明すると、1は前面を開口2とした本体で、開口縁には左右一対のガイドレール3を設け、また前後左右の各隅角部に、上下部の前後方向にエンドレスベルト等の無端体4を架け渡した回転自在のブーリー5を、その軸線を左右方向に配して取り付けられている。6は両縁をガイドレール3に摺動自在に嵌合して開口部2の上半部を閉止する上部シャッターで、下端部に取手7を設けた基体8を連結し、他端部の両側は上方の無端体4の上段部に連結されている。9は両縁をガイドレール3に摺動自在に嵌合して開口部2の下半部を閉止する下部シャッターで、上端部に取手10を設けた基体11を連結し、他端部の両側は下方の無端体4の下段部に連結されている。この上部シャッター6は下部シャッター9より重く形成されており、双方のシャッター6、9は開口部2の中央部付近において基体8、11を上下から接合して開口部2を閉止する。12は双方のシャッター6、9の動きを同調させるワイヤーロープで、上下部に設けたシーブローラー13に架け渡され、接合する状態となる双方の基体8、11に連結されている。14は

3

4

開口縁に設けた空室で、該部にワイヤーロープ 1 2 が張設される。1 5 はロック、1 6 は天板、1 7 は地板である。

#### 作用

而して、閉止状態から開放するには、いずれか一方のシャッター 6, 9 を開放方向へ摺動させることにより、ワイヤーロープ 1 2 で連繋された他方のシャッター 6, 9 も連動して開放方向へ摺動し、全面開口される。この際、シャッター 6, 9 は無端体 4 に連結されていることから、シャッター 6, 9 の摺動に伴つて無端体 4 も移動し、シャッター 6, 9 は無端体 4 によつて本体 1 に収納される。シャッター 6, 9 が長い場合には後方のブリー 5 を経て折り返される。閉止に当つても、一方のシャッター 6, 9 を摺動操作すれば他方も運動するのである。

#### 実施例

双方のシャッター 6, 9 を同調せしめるワイヤーロープ 1 2 は両端を基体 8, 1 1 に連結し、上方のシーブローラー 1 3 に架け渡すのみでもよい。

#### 考案の効果

本考案は叙上のように構成され、本体 1 の開口

部 2 は相反する方向へ連動して摺動する上下シャッター 6, 9 で開閉されるものであり、その開閉は本体 1 の前面に空間部を要することなく行え、隣接する収納庫等の使用も全く支障がなく、開閉操作は容易であり、開放されたシャッター 6, 9 は無端体 4 により本体 1 の内部へ案内され確実に収容される。

また、上部シャッター 6 の重量が大なる場合には、閉止状態において不測の開放のおそれが防止できるのである。

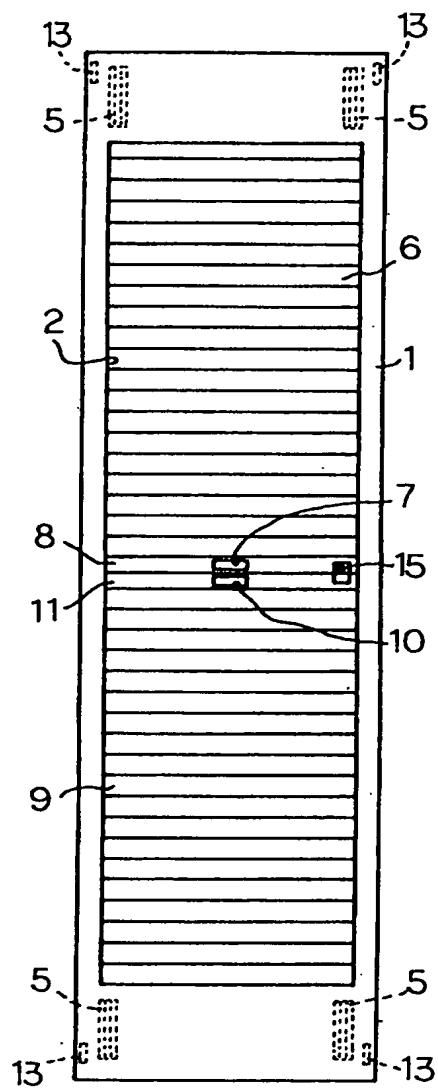
上記のように、本考案は例えば多数並列して用いられる収納庫として実用性に富むものである。

#### 図面の簡単な説明

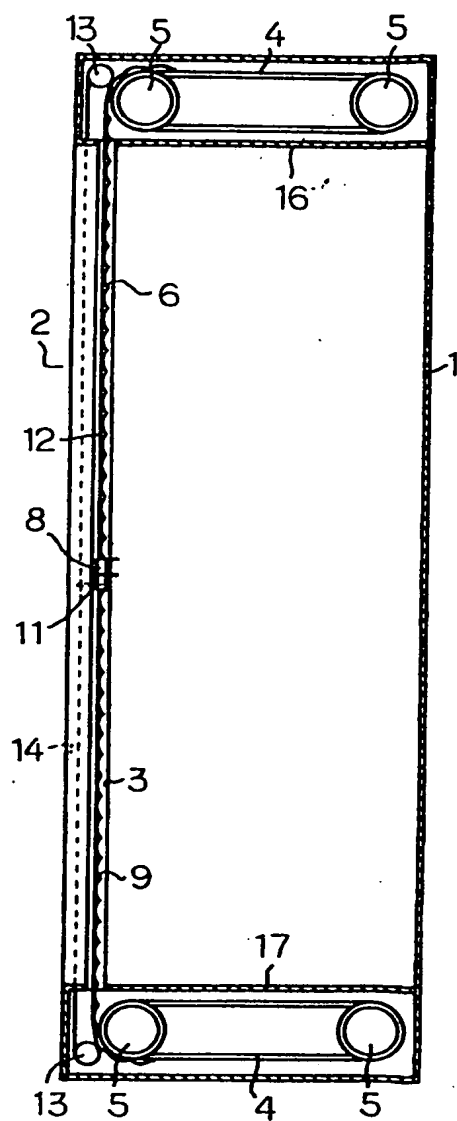
図面は本考案の一実施例を示し、第 1 図は正面図、第 2 図は縦断側面図、第 3 図は開放状態の縦断側面図、第 4 図は要部の拡大した断面図である。

1 は本体、2 は開口部、3 はガイドレール、4 は無端体、5 はブリー、6 は上部シャッター、8 は基体、9 は下部シャッター、1 1 は基体、1 2 はワイヤーロープ、1 3 はシーブローラーである。

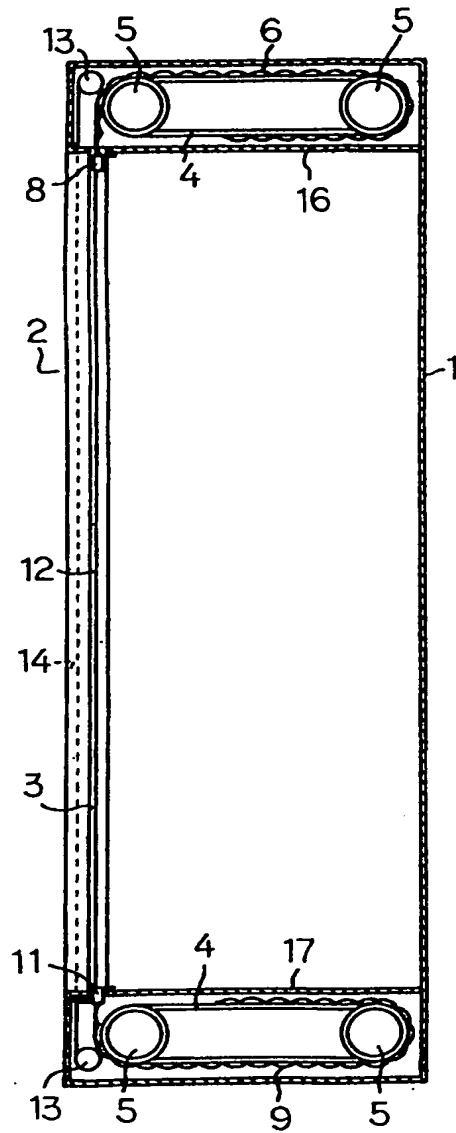
第1図



第2図



第3図



第4図

